

お母さんと、夏休みにスーパーに買い物に行きました。買い物が終わり駐車場のエレベーターに乗った時に、エレベーターに車いすのお兄さんも乗って来ました。ぼくとお母さんは、お兄さんがエレベーターから降りた後に降りました。車に荷物をつんで帰ろうとした時に、エレベーターの方を見ると、お兄さんが車いすから立ち上がっていました。車いすを直す姿でした。その時、車いすに荷物が引っかかって困っているのがわかりました。お母さんとぼくは、車から降りて助けに向いました。優先駐車場に停めていた車まで一緒に行きました。全く話さなかったお兄さんが袋から買ったばかりのクッキーの箱を出して、「これ食べる！ありがとう。」と言ってくれました。このスーパーには何度か来ていて、スーパーの車いすを時々使っていると、少しだけ顔でお母さんに話していました。ぼくは、安心した気持ちになりました。このスーパーには、優先駐車場があって、車いすが二台も置いてある。誰が車いすを使うんだろうと思った事はあるけれど、乗ったり降りたりする姿を見たのは初めてでした。スーパーの中で、買い物同行の支援を受けている人もいますが、ここのスーパーは、障がい者が一人でも買い物ができること安心しました。身体障がいの方は、周りに迷惑をかけたくないと思っている人も多い様ですが、もっと周りをお願いしてもいいと思いました。スーパーの車いすは、アコーディオンの様に折りたたみ式なのでコンパクトに収納できるけれど実際に身体障がいの方が利用するのは危ないと感じました。お兄さんは、ぼくにクッキーの箱をくれた時に、自分のはずかしい姿を見られたと思ったかもしれません。少し声が大きくなって「ありがとう！」と言ってくれた事が嬉しかったです。ぼくは、大人を持ち上げる事は出来ないけれど、手伝ったり行動したり出来るので、これからも優しい活動を大切に続けていきたいです。障がい者が積極的に過ごせる世の中であってほしいです。未来を作っていく、ぼく達が考えていきます。